



# 特 許 願

昭和 49 年 9 月 11 日

特許庁長官 三 宅 幸 夫 殿

1. 発明の名称 **フリガナ** **フリガナ** **フリガナ**  
**天草の処置方法**
2. 発明者  
**フリガナ** **フリガナ**  
住 所 **特許出願人と同じ**  
**フリガナ** 氏 名
3. 特許出願人  
**フリガナ** **フリガナ**  
住 所 **小樽市入船3丁目ノ3番地**  
**フリガナ** 氏 名 **加 藤 千代史**
4. 代 理 人  
住 所 札幌市中央区北1条西3丁目3番地 中村ビル 札幌(011)231-1681  
氏 名 (6917) 弁理士 川 成 靖 夫
5. 添付書類の目録  
(1) 明 細 書 1 通  
(2) 図 面 1 通  
(3) 委 任 状 1 通  
(4) 願書原本 1 通

## 明 細 書

### 1. 発明の名称

天草の処置方法

### 2. 特許請求の範囲

採取後さらしあがった各種天草をクレープ状に切断し、適当量ミックスし、これを包装することを特徴とする天草処置方法。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は寒天製造の原料となる天草の処置方法を提供しようとするものである。

従来天草の処置については採取後、さらして塩分、不純物などを除去し、これらを圧縮したのちむしろなどで包装し、これが寒天製造業者に渡る。寒天製造業者は各種天草を混合し、再度水洗したのち煮つめ寒天を製造している。し

かし天草は包装するに際して圧縮してもその性質上一定以上は小さくならず、数根に対して容量が大きく、これが運搬、格納に不便であつた。

本発明はかかる問題を充分解決しようとするもので以下図面を添附しながらその実施例の詳細を説明する。

採取後水などでさらしたのち、クレープ状に切断する。これを適当容量の袋などに収納包装する。この場合、容量は従来のものにくらべて約70%位小さいものとする事ができるから格納運搬に極めて便利である。またこれら切断天草を各種混合したものを煮つめることにより寒天を製造する。なお、この混合は包装前に行つてもよい。

本発明のものは上述のように構成されている

①9 日本国特許庁

## 公開特許公報

- ①特開昭 49-41198  
④公開日 昭49.(1974) 4 17  
②特願昭 47-91500  
②出願日 昭47.(1972) 9. 11  
審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

⑤2日本分類

4840 21

8 C1

から、

A. 全体の容積を小さくすることができるから格納、運搬などに便である。

B. 寒天製造に関して各種の天草の混合が分量的に正確に行いうる。従つて混合すみの天草を商品とすることができるから一般家庭での寒天製造が可能である。

C. 寒天製造工程での煮つめる段階で天草の繊維質が細かく切断されているから所謂のりがよく出て製品の分止りがよい。

など、数多くの利点を有する有用な発明と云ふべきものである。

特許出願人 加 藤 千代史

代理人弁理士 川 成 靖 夫

## 訂 正 明 細 書

## 1. 発明の名称

天草の処埋方法

## 2. 特許請求の範囲

採取後さらしあがつた各種天草をクレープ状に切断し、粉砕機、又はミキサー機により粉末とし適当量ミックスし、これを包装することを特徴とする天草処埋方法。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は寒天製造又はところてん製造の原料となる天草の処埋方法を提供しようとするものである。

従来天草の処埋については採取後さらして塩分、不純物などを除去し、これらを圧縮したのちむしろなどで包装し、これが寒天製造業者に

## 手 続 補 正 書

昭和 47 年 11 月 6 日

特許庁長官 三 宅 幸 次 殿

## 1. 事件の表示

昭和 47 年 特 許 第 91500 号

## 2. 発 明 の 名 称 天草の処埋方法

## 3. 補正をする者 事件との関係 特許出願人

住 所 小樽市入船3丁目1番5号

フリガナ カ トウ チロシ  
氏 名 加 藤 千代史

## 4. 代 理 人

住 所 060 札幌市中央区北1条西3丁目3番地 中村ビル 札幌 (011) 731-1681

氏 名 (6917) 弁理士 川 成 靖

## 5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日 (自発)

## 6. 補正の対称

特許請求の範囲の補  
発明の詳細な説明の補

## 7. 補正の内容

別紙のとおり

渡る。寒天製造業者は各種天草を混合し、再度水洗したのち煮つめ寒天、ところてんを製造している。しかし天草は包装するに際して圧縮してもその性質上一定以上は小さくならず、重量に対して容積が大きく、これが運搬、格納に不便であつた。

本発明はかかる問題を充分解決しようとするもので以下図面を参照しながらその実施例の詳細を説明する。

採取後水などでさらしたのち、クレープ状に切断する。その後粉砕機又はミキサー機により粉末とする。これを適当容積の袋、ダンボールなどに収納包装する。この場合、容積は従来のものに比べて約70%位小さいものにすることができるから格納運搬に極めて便利である。

など、数多くの利点を有する有用な発明と云うべきものである。

特許出願人 加藤 千代史  
代理人 弁士 川 成 晴 夫

またこれら粉末天草を各機混合したものを煮つめることにより寒天、ところてんを製造する。

なお、この混合は包製機に行つてもよい。

本発明のものは上述のように構成されているから、

A. 全体の容量を小さくすることができるから、

格納、運搬に便利である。

B. 寒天、ところてん製造に關して各種の天草の

混合が分量的に正確に行いうる。従つて混合

すみの天草を副品とすることができるから一

般家庭での寒天、ところてんの製造が可能で

ある。

C. 寒天製造工程での煮つめる段階で天草の糖

濃度が粉末とされているから所量のりがよく

出て製品の分止りがよい。